

活動完了報告

「日本語によるドラマティックオペラの創作発表」活動助成

(氏名) 野間 愛

《報告および成果》

2024 年6月1日に東大和市民会館ハミングホール小ホールにて、日本語によるドラマティックオペラとして新作オペラ『a Love story』の公演を行った。

昼公演、夜公演共に 90 名ほどのお客様が入られ、ほとんどのお客様が涙を流す、ドラマティックオペラと呼ぶに相応しい作品が出来上がった。

カエルと蜘蛛という可愛くも綺麗でもないイメージのある 2 種類の生き物が種別を超えて育む愛の物語。そこに紡ぎ出される音楽が、言葉にできない心の情景を見事に具現化してくれた。出演者は皆熱演で、特に今回合唱団として入った東大和少年少女合唱団の子どもたちによる演技が素晴らしく、演出家岩田達宗の指導の素晴らしさを実感した。岩田達宗によって、カエルの子供達は戦時中や貧困時の子供たちとして舞台上上がり、それらを養うものとして盗人のカエルが存在し、蜘蛛はそのカエルに唯一改心を求め続けるものとして登場した。盗人としてしか生きられないどうしようもないものでも、たったひとつ愛があれば魂の救済を得ることができる。そんな結論にまで到達した、素晴らしい物語となり、音楽作品としての出来栄がよく、さらに出演者によって磨き上げられた作品の煌めきが素晴らしい公演となった。

《今後の課題》

やはりなんといっても集客に課題が残る。今回は市の後援だけでなく教育委員会の後援を頂くことができたため小学校全体にチラシを撒くことができたが、5000 枚のチラシに対する反応が 5 組の親子だった。もっと早い段階で何回かの広告を打つ、東大和に限らず宣伝範囲を拡げて広告を撒くなど改善点は多い。満席にして好評を頂き、次に次に繋がれるように活動を行っていく必要があると考えている。

オペラのまじ主催 第4回公演

オペラ

a Love story

さわかみオペラ芸術振興財団

『みんなの寄付』助成事業

後援: 東大和市

東大和市教育委員会

東大和市音楽連盟

プロフィール



作曲

松岡あさひ Asahi Matsuoka
東京藝術大学音楽学部作曲科首席卒業、同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。2011年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位。2012年より文化庁新進芸術家海外研修員として、ドイツ・シュトゥットガルト音楽演劇大学に留学し、作曲とオルガン演奏法を学ぶ。現在、東京藝術大学演奏芸術センター准教授。



カエル(昼)

中島康晴 Yasuharu Nakajima
東京藝大音楽科首席卒業。同大学院在学中に数々のコンクールに優勝しイタリアに渡る。数々の世界的コンクールに入賞後、26歳でヴェルディ「オペルト」でミラノスカラ座デビュー。スカラ座でこれまでに様々な7つのオペラで主演し好評を博す。輝かしい響きと美しいディクションは海外でも評価が高い。二期会会員。



演出

岩田 達宗 Tatsuji Iwata
オペラ演出家。五島記念文化賞オペラ新人賞、音楽クリテッククラブ賞を受賞。日本オペラ協会、藤原歌劇団、東京文化会館、堺シティオペラ、日生劇場、新国立劇場、びわ湖ホールなどで作品を発表し、その作品は芸術祭大賞、三菱UFJ音楽賞、佐川吉男賞など受賞多数。ひろしまオペラルネットワーク芸術監督、武蔵野音楽大学特任教授、大阪音楽大学客員教授。



蜘蛛 (昼)

野間 愛 Ai Noma
徳島県出身。徳島文理大学音楽学部音楽科、東京藝術大学音楽学部音楽科卒業、同大学大学院オペラ専攻修士課程、及び博士後期課程修了。これまでに稲富祐香子、熊谷公博、永井和子、葉玉葉子、濱田芳通の各氏に師事。オペラや宗教曲、声楽アンサンブルから合唱まで幅広く活動する。第1回平井康三郎声楽コンクール第1位。第23回大阪国際音楽コンクールAge-G 第2位。オペラのまど代表。現在、東京藝術大学附属高校非常勤講師。



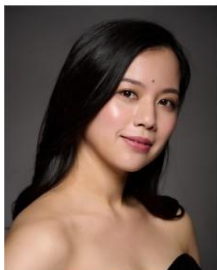
指揮

小津 準策 Junsaku Ozu
日本合唱協会正指揮者、宝塚歌劇団指揮者。岐阜県立加納高校音楽科及び国立音楽大学を卒業。日本合唱協会定期演奏会、ズーラシアンブラス、松竹ミュージカル「流星の音色」（滝沢秀明演出、京本大我主演）、宝塚歌劇団雪組東京公演「ボイルド・ドイル・オンザ・トイル・トレイル」などを指揮。



カエル(夜)

澤原行正 Takamasa Sawahara
広島県呉市出身。愛媛大学、東京藝術大学及び同大学修士課程修了。桐朋学園大学博士後期課程修了。博士号（音楽）取得。ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などのソリストを務め、オペラでは『カルメン』、『魔笛』、『愛の妙薬』、『ラ・ボエーム』など多数のオペラに出演。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。



ピアノ

齋藤 亜都沙 Azusa Saito
東大和市立第六小学校を経て国立音楽大学ピアノ専攻首席卒業。同大学院修士課程器楽専攻ピアノコース修了。読売新人演奏会、皇居桃華楽堂御前演奏会等に出演。現在、毎年ソロリサイタルを開催する他、室内楽や様々な伴奏で演奏活動を展開している。ピアノを安井耕一、梅本実、五十嵐稔、五十嵐恵子、福田ひかりの各氏に師事。国立音楽大学及び大学院歌曲コース伴奏助手、こども教育宝仙大学非常勤講師。



蜘蛛 (夜)

中桐かなえ Kanae Nakagiri
岡山県出身。昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。21年「フィガロの結婚」農民の娘で藤原歌劇団公演デビュー以降、数多く藤原歌劇団公演にソリストとして出演。日本オペラ協会には、「ミスター・シンデレラ」の美穂子でデビューし、「キジムナー時を翔ける」フミオ役、倉本聰原作「ニングル」（新作初演）スカンボ役で出演。藤原歌劇団、日本オペラ協会所属。



子ガエルたち

東大和少年少女合唱団
東大和少年少女合唱団は、平成20年(2008年)3月に東大和市教育委員会の主催団体として設立されました。
小学1年生から高校3年生が在籍し、定期演奏会のほか、平和コンサート、市民音楽祭などのステージに毎年立って地域に根差した活動を行っています。
東大和少年少女合唱団ホームページ<https://hcc-higashiyamato.com/>

土井 結子	谷口 楓奈	荻原 優音
夏目 汐音	中村 花鈴	江畑 日陽
夏目 奏音	廣本 湊斗	中村日向子
杉田 絢音	荻原 愛音	唐沢 怜
		狗飼 はな

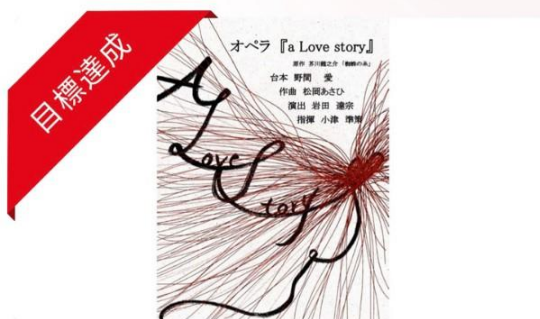
本公演はさわかみオペラ芸術振興財団 様の
『みんなの寄付』による助成を頂いております！
匿名希望の方もいらっしゃいますが、
公開でメッセージ頂いた方のお名前を記載させて頂き、
この場を借りて厚く御礼申し上げます！

助成
御礼



中嶋 克彦 様
柏原 達 様
tarotaroyan 様
武藤 和子 様
T・K 様
鈴木 菜月 様
野間 義明 様
前田 桃 様
鳥志麻 様
みなみ 様
福永 一博 様
井上 志郎 様
しらいしみやこ 様
T + M 様
田中 祐香子 様
nenekei 様
木谷 直俊 様
渡辺 一美 様
内藤 淑枝 様
山こいダー 様
Sanae 様
田岡 文香 様
水野 彰子 様
宗次 徳二 様
山口 裕之 様
安川 早苗 様
tama 様
サカイノクニコ 様
齋藤 亜都沙 様
元どんぐり・やさどろ 様
ばんだ 様
ぐらぼり 様
山本 顯一 様
原田 奈美 様
高橋 由理 様
大塚 純子 様
川井 悦子 様
中須 美喜 様
田尻 健 様
縁乃下力 様
鷺尾 裕樹 様
小沼 俊太郎 様
津久井 佳男 様
梅田 隆司 様
佐山 茂昭 様
登茂子 様

<募集終了！ ありがとうございます！>世界で歌い継がれる日本語ドラマティックオペラを創りたい！



支援総額

1,010,000円

101%

目標金額 1,000,000円

👤 サポーター

112人



終了しました

オペラ *a Love story* 作品解説

本日は新作オペラ『a Love story』によろしくお越しく下さいました。

私がオペラを書くのは学生の頃以来ですので、かれこれ15年ぶりになるでしょうか。前作は東京藝術大学の奏楽堂企画学内公募にて、『怪談』という企画を進めていた学生から、その中の一演目であるミニオペラの作曲を急遽頼まれ、志賀直哉の短編小説『荒絹』（1917）をもとに30分ほどの作品を作りました。今回は芥川龍之介の『蜘蛛の糸』（1918）が原作ですから、どちらの作品も、奇しくも大正初期の同時期に作られた短編小説をベースにしていることとなります。

この15年、私は作編曲と歌手や器楽のピアノ伴奏を主な仕事にしてきました。歌の伴奏分野は歌曲や宗教曲のことが多く、オペラは時々、という程度の頻度でした。私自身、正直なところあまりオペラの熱心な愛聴者ではありません。オペラの大仰な愛憎劇や肥大したドラマよりは、歌曲の細やかな心情の移ろいや自然描写といった箱庭的世界を愛でている方が好みなのです。

そんな私が書いた久しぶりのミニオペラですから、ちょっとオペラらしからぬ作品に仕上がりました。手法としては、どちらかというオペレッタに近いかもしれません。まず、アリアをつなぐ劇部分は、レチタティーヴォではなくセリフで進めています。レチタティーヴォ（語るように歌わせる作曲手法）は、イタリア語などのヨーロッパ系のアクセントの強弱がはっきりした言語であれば効果を生みますが、日本語には向いていないと私は感じています。また、各キャストの聴かせどころとなるアリアも、劇的な表現というよりは内面的な表現に寄せて書きました。

個人的な話になりますが、このオペラの作曲を始めた頃、我が家に第一子がやってきました。まだ自分だけでは何もできない存在を前にして、生活は激変しお世話に明け暮れ作曲がままならないほどでしたが（関係者の皆様には作品の完成を首を長くしてお待ちいただきました）、誕生から日々成長していく我が子を見てみると、初めて目にするもの、初めて会う人、初めての音、声…そのひとつひとつが彼にとっては新しく、驚きをもって世界が広がっていくのです。そのありさまはまさしくドラマであり、小さな箱庭の中には収まらないエネルギーに満ちていました。そんな日々は、私の興味と作品をこれまでと少し違う方向に導いてくれたように思います。

野間さんが書いてくださった台本は、『蜘蛛の糸』をもとにしながらも、より愛にあふれたストーリーになりました。台本と曲を書いた私たちよりも更に深く作品を読み込んでくださった

演出の岩田さん、素晴らしいキャストの皆さんと指揮の小津さん、
ピアノの齋藤さんがこの作品に命を吹き込んでくださる
今回の初演を、私自身も客席から聴かせていただくのを
とても楽しみにしています。

作曲家 松岡あさひ



オペラのまどによる今回のオペラ「a Love story」は、東大和の子供たち13人にオペラを経験してもらい、それを多くのお客様と共に楽しんでもらおうという試みです。それを新作オペラの発表もかねて、ということですから、とても野心的な試みです。

東大和の子供達を中心にした企画ということで、オペラのまどの主催者であり、今回の「a Love story」の台本作者である野間愛さんが題材に選んだのが芥川龍之介の「蜘蛛の糸」です。「蜘蛛の糸」は芥川龍之介が初めて書いた児童文学、つまり子供達を読者の対象として書いたものです。芥川龍之介の児童文学はおよそ12篇ほどあります。「蜘蛛の糸」はその中でも「杜子春」「トロッコ」と並んで、児童文学だけではなく、全ての文学作品の中での代表作と称される名作です。

原作の「蜘蛛の糸」は現世で『罪』を犯し、地獄に落ちた悪党が現世で行った唯一の『善行』によって救われかけるが、結局は自らのエゴのために救われることはない、という物語です。児童文学とは思えないシニカルで透徹した内容のものです。それをオペラに置き換えるにあたって野間愛さんは『罪』と『善行』の両方を『愛』に置き換えて、新たに作品を創造しました。

今回の登場人物はカエルと蜘蛛という人間ではない生き物に設定されています。が、そもそも人間にとって『愛』以上の罪、『愛』以上の善行があるのでしょうか、というのが野間愛さんのとても斬新な新しい視点です。『愛』は罪であると同時に善行であると野間さんはいうのです。

主人公のカエルは泥棒で、地獄に落とされるだけの深い罪を重ねます。しかしそれは、親を失った不幸な子供達への『愛』ゆえなのです。そしてカエルは蜘蛛と愛し合っています。

しかし、これは種の境界を超えた許されない罪の『愛』です。ですから

『愛』ゆえに幾重も重なった罪によってカエルは地獄へと落ちます。

しかしカエルへの『愛』ゆえに、カエルを地獄から脱出させようとして、蜘蛛はその糸を地獄の底へと延ばしていきます。

このオペラでも、原作通りに主人公は自らのエゴゆえに地獄から脱出することはできません。

しかし、この作品の主張はここからが原作とは違う斬新な方向へ向かっていきます。

このオペラに描かれていることは、必ずしも地獄から抜け出すことだけが救いではない、ということです。

『愛』こそは罪であり、善行であり、そして同時に救いである、ということなのです。何も要らない、ただ愛があれば、と。

愛は、それだけで救済だと、このオペラは訴えます。

目に見えるような救いなんて現実にはない。

我々が生きている世界自体が地獄かもしれない。

この世界では『愛』すら地獄に繋がるような罪かもしれない。でもそれでも人間にとって愛とは大切なもの、それ自体が救いであるようなものだ、とこのオペラは訴えます。

キリスト教の伝説や、ドストエフスキーの

「カラマゾフの兄弟」にも登場し、

芥川龍之介の最高傑作となったこの物語。

それをオペラのまどがどんな風に

現代への問いかけに蘇らせるか、どうぞお楽しみください。



演出家 岩田達宗

